

安全で安心な教育環境を目指して (長寿命化改良事業)



釧路市教育委員会

【対象校】

(くしろしりつ おたのしけちゅうがっこう)
釧路市立大楽毛中学校

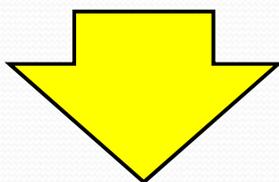


釧路市の学校施設整備の現状

《現状》

耐震化の著しい遅れ

平成24年4月現在(耐震化事業開始年度) **51.8%**
(北海道内 179市町村中 154番目)



平成27年度末までの
耐震化完了を目指し

平成24年度から耐震補強事業と大規模改造事業
をPFI事業で開始 (総事業費約150億円)

【対象校】

小学校 10校 中学校 5校

《釧路市立学校施設耐震化PFI事業》

【第一期】

対象校：4校（小学校2校、中学校2校）

事業費：約43億6千万円

（うち工事関係経費：約41億1千万円）

事業期間：平成24年12月～平成34年12月

（うち工事期間：平成27年3月まで）

《附帯工事》（耐震補強が困難なものの改築等）

屋内運動場1棟、生徒用昇降口1棟各改築等

《釧路市立学校施設耐震化PFI事業》

【第二期】

対象校：11校（小学校8校、中学校3校）

事業費：約100億7千万円

（うち工事関係経費：約97億8千万円）

事業期間：平成26年3月～平成36年3月

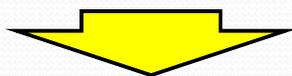
（うち工事期間：平成28年10月まで）

《事業実施体制》

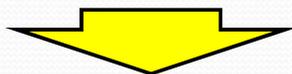
平成24年度に専門部署『**学校耐震化推進室**』を
教育委員会事務局に新たに設置。

・事務職2名、技術職5名（建築職4名、設備職1名）

耐震化の完了している学校施設（24施設）



築後30年近く経過し、老朽化が著しい施設が多い



耐震化完了後、順次大規模な改修及び長寿命化対策を講じる必要がある



大楽毛中学校をモデルに、今後の老朽化対策を検討

大楽毛中学校の概要



《生徒数・学級数》（平成27年5月1日現在）

普通学級：7クラス 212人

特別支援学級：2クラス 6人

《校舎棟》（昭和53年5月完成）

鉄筋コンクリート造3階建（一部1階建）

面積：5,063m²

《屋内運動場棟》（昭和53年11月完成）

鉄骨造2階建

面積：1,008m²

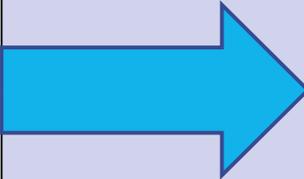
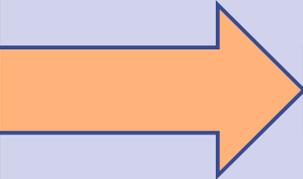
《耐震第二次診断結果》

棟区分	階数	面積 (m ²)	I s 値	判定
校舎1	3	4,441	0.342	NG
校舎2	1	622	1.574	OK
屋内運動場	2	1,008	0.260	NG

- ・耐震化未完了
- ・築30年以上経過しており、老朽化が著しいことから、大規模な改修が必要な状況でもある。

・国の『学校施設老朽化対策先導事業（平成25年度）』のモデル校に指定される。（全国四校）

《改修スケジュール》

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			
基本計画の策定	実施設計の実施	長寿命化改修工事の実施	

ワークショップを開催し、広く整備要望を聴取

《参加者》

- ・教職員、生徒会役員
- ・学校運営協議会委員
- ・地区連合町内会役員
- ・釧路公立大学学生
- ・釧路工業高等専門学校学生



《ワークショップでの主な意見》

【地域住民からの要望】

- ・災害発生時（特に津波）における緊急一時避難施設としての整備や地域に開かれた多目的室の設置

【教職員・生徒からの要望】

- ・国道からの騒音、冬季における寒さ、飲料水の整備等
- ・管理棟の再編、少人数学級、特別支援学級等に対応できる教室の整備

【学生からの提言】

- ・バリアフリーを重視した整備、自然採光など大胆な建築技術的提案 他

立地上の問題点

海岸に近く周辺に高層建築物がないため、地域の津波避難施設としての役割を担う





国道38号線

国道に隣接しているため騒音が激しく、夏の暑い時期でも窓を開けられない

老朽化対策

築30年以上が経過しており、老朽化が著しいため、抜本的な整備を要する



生徒用トイレ



屋外避難階段



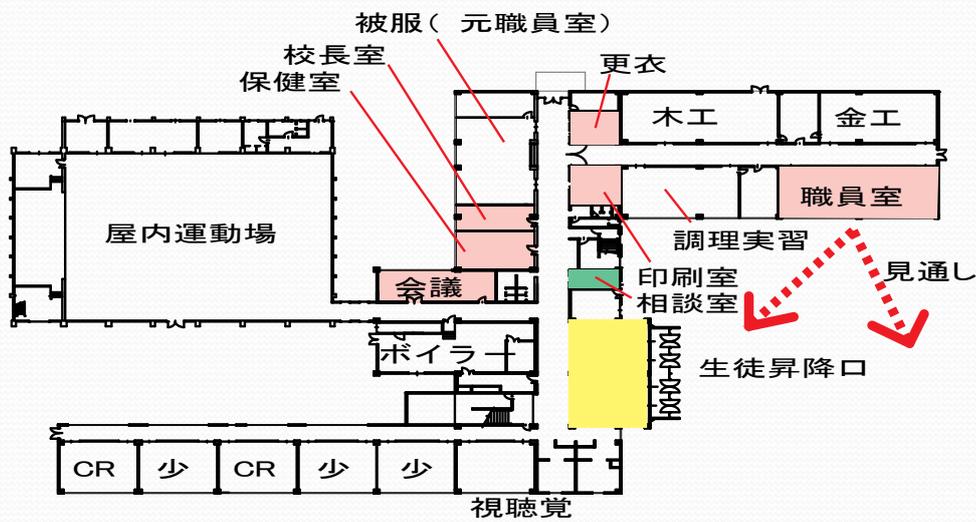
廊下



手洗い場

管理棟の問題点

校長室と職員室が離れている。また、会議や相談用のスペースが十分確保できない



CR: クラスルーム
少: 少人数教室

図: 1 階平面図(現況)

大楽毛中学校の整備方針



【整備方針】

1. 長寿命化対策

外断熱工法 ほか

2. 防災機能の強化

避難場所等の整備 ほか

3. 学習・生活環境の充実

各種設備の更新
管理棟の再編 ほか

4. 地域との連携・交流

多目的ルームの整備

【整備内容】

1. 事業費（耐震補強工事費含む）

約958,000千円

工事種別		事業費
耐震補強工事		62,000千円
長寿命化改良工事		896,000千円
内 訳	建築主体工事	577,000千円
	電気設備工事	133,000千円
	管設備工事	186,000千円

2. 工期

平成27年5月～平成28年10月

（うち、耐震補強工事は平成28年3月まで）